

表紙は語る 表紙は語る



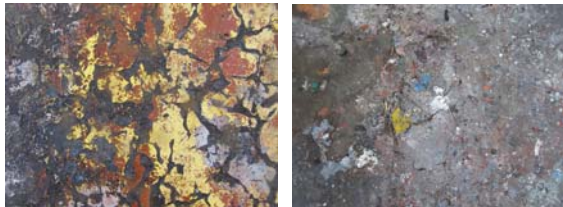
さて、今回は表紙も浦賀ドックです。

Caccoは浦賀ドックが猛烈に気に入ってしまったんです(^.^)

これがドック内に降りるための階段。
もちろんわたしたちのような見学者用の
ものです。そしてこれがその辺りの地面。
かすかに残るペンキの跡がこの日の雨に濡
れ光沢を放ち、「船渠」という言葉とよく似
合う雰囲気を醸し出していました。



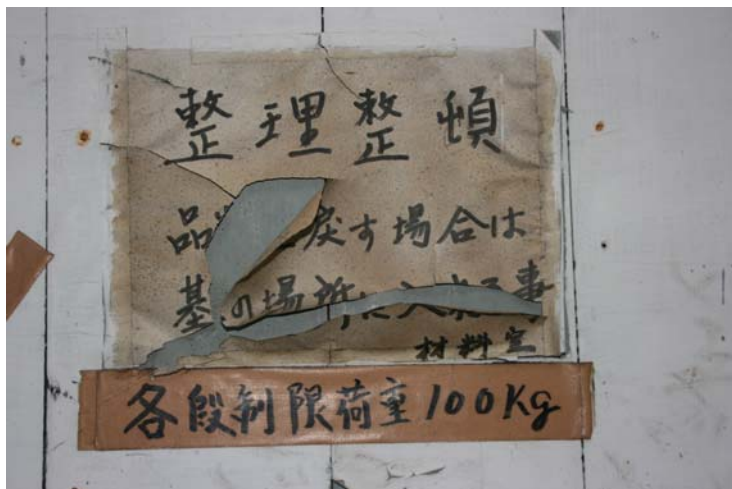
表紙の背景に使ったのはこの一枚です。印刷をすると
違った印象になりますが、それはそれなりにイメージ
とぴったりきます。それにしても表紙の人物は、ドッ
クの中で与えられた、ひとときのリハビリ期間を過ぎ
す船のように、やがて帰る海に思いを馳せ、波の
音に耳を澄ませているように見えませんか？



ドックの底に降りるとレンガに囲まれた、想像したより
もっと広い空間があり、そこには明治、大正、昭和の時
代にはたくさんの人たちが働き、活気に満ちていたであ
ろう証がそこここに残されています。



とはいっても、こうやって残っているものは昭和期のものなのでしょう。でもそこには今となっては懐かしい香りがし、そこで時は止まってしまっているようです。



今はここにはいない無名で生きた方たちの生活の痕跡は、この日の冷たい雨と、雨に打たれながら聳えるドックの姿と重なって改めて過去へとフラッシュバックするようです。



亀井さん、アップ！！
どうもありがとう！

浦賀ドックそのものもちろん感じるどころ多かったけれど、うさおも書いている通り、亀井さんがとてもいい方だったこと（あの真っ暗やみの中激突した猫！は忘れられない。今のデジカメは暗闇をものともしない！）、浦賀で入ったふたつのお店の方たちがとっても親切で地元浦賀を愛していることが伝わってきたこと、そんなことがとってもうれしい。ぜひぜひミスチルに浦賀ドックでPVを作ってほしい。こちらはなんだかバランスくずしながらピースしているCacco。で、小さくて見にくいけどこのツアーに参加しました。

